

第五回仙台市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会議事録

日 時 平成 28 年 1 月 28 日（木）午後 3 時 00 分より

場 所 仙台市役所本庁舎 2 階 第 1 委員会室

出席委員 阿部重樹委員 大瀧正子委員 折腹実己子委員 小菅玲委員 島田福男委員
庄司健治委員 鈴木孝男委員 中田年哉委員 中村祥子委員 根本勁委員
諸橋悟委員 渡邊礼子委員 (計 12 名)

欠席委員 小岩孝子委員 渡邊純一委員 (計 2 名)

事 務 局

◎健康福祉局	村上 健康福祉部長	石澤 参事兼社会課長
	大久 総務課総務係長(代理出席)	高橋 障害企画課長
	小野 障害者支援課長	下山田 高齢企画課長
	小林 介護予防推進室長	阿部 介護保険課管理係長(代理出席)
	斎藤 健康政策課長	
◎子供未来局	大森 子育て支援課長	熊谷 運営支援課長
◎太白区	斎藤 保健福祉センター管理課長	

オブザーバー

◎社会福祉協議会 早川 地域福祉係長

担 当 課 健康福祉局健康福祉部社会課

- 次 第
1. 開 会
 2. 議事録署名人の指名
 3. 報 告
 - ① パブリックコメントの結果報告と対応について
 4. 議 事
 - ① 第3期仙台市地域保健福祉計画の答申案について
 - ② 第3期仙台市地域保健福祉計画の愛称およびサブタイトルについて
 5. その他
 6. 閉 会

事前配布資料

- 資料 1-1 「第3期仙台市地域保健福祉計画」（中間案）に関する意見募集（パブリックコメント）の実施結果について
- 資料 1-2 「第3期仙台市地域保健福祉計画」（中間案）に寄せられたご意見と本市の考え方
- 資料 2 第4回地域福祉専門分科会における意見等に対する本市の考え方及び修正事項
- 資料 3 「第3期仙台市地域保健福祉計画」（答申案）
- 資料 4 「第3期仙台市地域保健福祉計画」の愛称等について
- 参考資料 「第3期仙台市地域保健福祉計画」＜資料編＞

机上配布資料

- ① 第4回仙台市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会議事録
- ② 座席表
- ③ 保健福祉ハンドブック
- ④ シルバーライフ

会議内容

1 開会

【事務局（社会課地域福祉係長）】

第5回仙台市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会を開催する。

2 議事録署名人の指名

（名前の50音順のとおり、阿部重樹会長が庄司健治委員をもう一人の議事録署名人として指名する。）

3 報告

【阿部重樹 会長】

初めに、パブリックコメントの結果報告と対応について事務局より報告をお願いする。

【石澤健 参事兼社会課長】

（資料1-1、資料1-2により説明）

【阿部会長】

ただいまの事務局からの説明について、意見・質問はないか。なおパブリックコメントにおいて「具体的な取り組みの記述がない」という意見があったことを踏まえ、答申案には個別事業と担当課を事務局より記載いただいている。

特にないと判断して、次に進ませていただく。

4 議事

【阿部会長】

次に第3期仙台市地域保健福祉計画の答申案について、事務局より説明をお願いする。

【石澤参事】

（資料2、資料3により説明）

【阿部会長】

ただいまの事務局からの説明について、意見・質問はないか。

【中村祥子 委員】

40ページにある、市民センターによる地域支援事業についてだが、こちらは市民センターが独自に行うものなのか、それとも地域団体と連携しながら行っていく事業なのだろうか。すでに具体的内容が決まっているなら教えていただきたい。

【石澤参事】

この事業はこれまでも継続して行ってきたものであるが、市民センターが地域の様々な団体に呼び掛けて協働で行っているものである。地域団体への支援も兼ねているほか、団体同士の連携のきっかけにもなっている事業であると考えている。

【中村委員】

市民センターは住民が通いやすい場所に設置されているため活動場所として利用しやすい反面、優先順位の関係で地域住民には予約しづらいという側面がある。例えば町内会を優先して予約させてしまう場合や、団体ごとに輪番制で登録する場合、さらに予約日が重複した際には抽選制になるなど、継続的な活動場所としては利用しづらい面もある。市民センターと地域団体が連携した方が効率的な事業に関しては、一定期間同じ場所を継続して予約・利用できるような仕組みを考えていただけるとありがたい。

【石澤参事】

掲載した事業は市民センターが主体となって行うものとなるので、地域団体が市民センターと連携してこの事業に参画した場合、従来より継続的な活動がしやすくなるかと思う。ご意見は参考にさせていただく。

【渡邊礼子 委員】

同じく 40 ページについてだが、マイスクールプラン 21 についてお聞きしたい。現在この事業では小中学校の空き教室を利用して子供たちの学習活動ルームにしているが、これを地域の高齢者や未就学児向けのサロンなどの地域事業に利用することは可能なのだろうか。この事業の担当課は生涯学習課となっているが、仮に高齢者向けサロンを開催した場合、サロンそのものの担当は保健福祉課や介護予防推進室になるかと思われる。その際担当課同士の連携が可能か伺いたい。

【石澤参事】

一例をあげると、地域の拠点づくり事業を進めていく中で、地域と学校が協議によって空いている教室を地区社会福祉協議会の事務局として利用することとした例がある。ただ学校側の希望や空き教室の状況など、地域ごとに様々な違いがあるため一概には言えないが、すでに先行事例があり高齢者向けサロンとして利用することは可能であるとする。

【渡邊委員】

縦割り行政によって利用が制限されることはないということか。

【石澤参事】

それはないが、あくまで地域と学校の協議によるものなので、必ずしも希望に添えるものではない。

【渡邊委員】

了解した。参考とさせていただく。先ほど中村委員が発言された通り、市民センターは空き部屋が足りず利用できない場合があるため、我々としても学校の空き教室を利用させてもらいたいが、なかなか思うようにいかないのが現状である。また、このマイスクールプランでは5時以降の利用ができず、児童の放課後保育などには活用できない点も指摘したい。5時以降は管理者である教師の方が不在となるためやむを得ないのかもしれないが、なかなか融通の利かない点もあるため、柔軟性をもった事業の展開をお願いしたい。

【石澤参事】

既に実例があるので、社協とも相談をしていただきながら、関係機関で連携して協議していくことで取り組みが進んでいくものと思うので、地域団体からのアプローチもお願いしたい。

【阿部会長】

様々困難もあると思うが、先行事例を作り上げていってもらいたいとのことであった。

【渡邊委員】

地域と学校の協議内容に応じてということだったが、行政の担当課が教育局、健康福祉局にまたがっているためか、なかなか校長先生独自の回答を得られにくいと感じている。放課後の児童たちの保育等、子育て支援の枠組みで学校を利用させていただけるように協議・協働を進めていきたい。

【庄司健治 委員】

41 ページにある、保育所の地域子育て支援事業についてだが、地域子育て支援センターや子育て支援室の設置という文言に関して、これは新規にこうした施設を増やすのか、それとも既存の施設をさらに増設するのか伺いたい。

【熊谷祐二郎 運営支援課長】

子供未来局運営支援課長の熊谷です。この事業は保育所で行っている事業であるが、現在子育て支援センターと支援室は合わせて 26 か所ある。今後、民間事業者の拡大と地域の実情にあわせてさらに増設するつもりでいる。

【庄司委員】

センターに行かれる方というのは、保育所に子供を預けられない家庭のケースが多いと考えている。全体的に数が足りないのではないかと考えるので、地域の子育て家庭のためにもさらに増やしていった方が役立つのではないだろうか。

【熊谷課長】

子育て支援センター等の設置目的についてまず説明させていただくと、これは保育所が本来持っている機能、例えば保育士の子育てノウハウや、栄養士が持っている食育の知識を、地域の子育て家庭

や一般家庭に提供することと考えており、どちらかというとも保育所の機能を地域に還元することを目的として行っている。今のご意見の中には待機児童の件も含まれているかと思うが、この事業の内では実施していないものの、27年4月からスタートしている子ども子育て支援新制度の中で、小規模保育事業という19人以下の小さい単位の施設や、保育ママと呼ばれる家庭的保育事業という制度を活用しながら、保育が必要なお子さんや家庭に対する保育サービスを提供している。

【庄司委員】

待機児童の解消のため保育所を創設することも重要だが、子育て支援センターとして指定されている保育所が限られているのも課題の一つである。センターに指定されている保育所を増やし、子育て世代の交流の場や、子育てに関する学びの場を増やしていただきたい。民児協の活動の一つに、児童館や集会所で民生委員が子育てサロンを行っている例もあるが、中村委員と渡邊委員がおっしゃる通り場のセッティングに苦勞を要することもある。センターが増えれば開催場所も確保できるし、さらに保育の専門家にサロンに参加していただければ、民生委員より掘り下げた内容のサロンが開催できると思う。保育所の増設と保育所に付随するセンターの2つを増やしていただきたい。

【熊谷課長】

ご意見感謝する。保育所子育て支援センターも地域の実情に応じて増やしていく方向で考えている。また、サロンについてであるが、特に午前中の児童館において、子育て家庭が集う場を提供しており、場所によって民生委員児童委員と連携して開催しているところもある。こうした活動の必要性については子供未来局でも同様の思いであるので、今後も引き続き関係機関の協力を得ながら事業の拡大に努めてまいりたい。

【阿部会長】

他にはないだろうか。

【折腹委員】

21ページにある、各圏域における活動、関係機関の具体例の中に、団体数が記載されているものとされていないものがある。わかる範囲で示していただいた方が、市民にもどれだけの団体が自分の圏域で活動しているのかが分かっていいのではないだろうか。

【石澤参事】

比較的数字のとらえやすいものについては記載していたつもりであるが、できる範囲でさらに調査を進めさせていただく。例えばPTAなどは学校の数に対応していると思われるので追記は可能であろうが、福祉サービス事業者・施設など、日々入れ替わりが激しく団体数の変動が大きいので、具体の記述が容易でないものもあると思われる。再度具体例を精査し可能なものはお示ししていきたい。

【阿部会長】

時間の許す限り、調査可能な範囲で努力していただくという答弁をいただいた。よろしく願います

る。

【鈴木孝男 副会長】

58 ページの第 6 章についてお聞きしたい。先週ある市町村の職員研修に参加させていただいたが、職員の方から他の関係部局の状況がなかなか把握できないという話題が出てきた。その部署はまちづくりの関係課であったが、地域課題や担当する事業の状況等について、部局間での情報共有に課題を感じているということであった。第 6 章の 2 番にある、市の関係部局の連携という項目について、仙台市では具体的にはどのような体制づくりや推進を図っていくのか教えていただきたい。

【石澤参事】

本計画では福祉部門に限らず各局区等の課が関連しているが、例えば今回の最終案の決定についても、担当課と情報はすべて共有している。また必要に応じて連絡会議を開催し、顔を合わせて相談することもある。今後とも掲載した事業の進捗管理、評価を本分科会の委員の皆様をお願いすることとなるが、評価資料の作成など各関係課で協力して推進していくことを想定している。

【鈴木副会長】

できるだけ手間をかけずに、日常的に地域のニーズや課題を共有できるような体制をとっていただくとうありがたい。やはり行政の縦割りは市民団体や地域にとってストレス要因となるので、職員の中での情報共有を徹底していただきたい。

【中村委員】

ちょっと読み込む時間がなかったのでどこかに書いてあったら大変恐縮であるが、仙台市で今度策定する差別禁止条例について伺いたい。条例の中で合理的配慮について求められており、先日の会議では全市的に関係局・関係者で勉強会を行い、施策や方針の徹底を図るという意見が出されていた。見た限り本計画には盛り込まれていないように思ったのだが、すでに記載されてあるのであれば申し訳ないがお教えいただきたい。

【阿部会長】

盛り込まれているのかどうかということとあわせ、合理的配慮についても地域保健福祉計画の策定にあたって考えや立ち位置があると思うので、その点も含めて事務局から教えていただきたい。

【石澤参事】

障害者の差別解消推進については、52 ページの施策の方向 5-2 のバリアフリーのまちづくりの 4 番に、障害者差別解消の推進という項目を立てて記載をさせていただいている。具体的な合理的配慮の内容等に関しては、障害の計画や事業において推進を進めていくため、本計画においては事業概要のみを記載しており、ご指摘のあったような取り組みもしっかり進めてまいるという方向性を示しているところである。

【中村委員】

窓口となる担当課は障害企画課であると思うが、市の全体施策となった時にこの地域保健福祉計画の中での位置づけを十分果たせるのかどうか伺いたい。

【石澤参事】

例えばこの地域保健福祉計画については私ども社会課が総合的な窓口として担っているが、事業の推進は本日同席しているような関係課、さらに他局等も含めて行うところであり、社会課はその総合調整や、事務局としての役割を担当している。同様に障害者差別の解消推進も、障害の課以外にも管理部門等の様々な関係部局を含めて検討しているところであるが、その総合的な調整、推進は障害企画課が担っていくという趣旨で本計画には記載している。

【阿部会長】

委員の皆様の様子を覗くと、おおむねこの答申案についてご了解をいただけたものと判断できるが、先に進めてもよろしいだろうか。

それでは、ここで1点委員の皆様に語りたい事項がある。本日ご意見いただいた事項を踏まえた修正、及び、本日指摘されなかったが今後事務局内で精査・精読を進めていくうえで見つかった修正点が出てくる可能性があるが、それらの修正は、私と事務局で協議をして対応していきたいと考えている。委員の方にはこの2点についてご了解をいただきたいと思う。よろしいだろうか。

(異議なしの声)

ありがとうございます。それでは改めて確認をさせていただくが、軽微な修正等は私と事務局とにご一任いただき、市長あてに答申をさせていただく。これまでの検討の経緯、手順手続、本日の分科会での委員の皆様の様子を勘案すると、重大な修正はおそらく出てこないと思うので、以上のような対応を取らせていただく。

それではご了解をいただいたところで次の議題に入る。第3期仙台市地域保健福祉計画の愛称及びサブタイトルについて、事務局より説明をお願いします。

【石澤参事】

(資料4により説明)

【阿部会長】

愛称は第2期を踏襲し、サブタイトルは3つの案から選んでいただきたいとのことだった。ただいまの事務局からの説明についてご意見はないか。

【折腹委員】

愛称はこのまま「支え合いのまち推進プラン」の踏襲で構わないと思う。サブタイトルであるが、B案の「未来を育む地域の福祉力の充実をめざして」がふさわしいと考える。今回の計画では特に若者に地域福祉活動へ参画していただくという方向性を出しているため、前段の未来を育むという言葉で強調されると思うし、さらに後段の充実をめざしてという文言も、方向性がしっかり示されてい

るのではないだろうか。

【中田年哉 委員】

同様の意見となるが、自分も B 案がよろしいのではないかと考える。A 案「地域の福祉力で未来をつむぐ」及び C 案「地域の福祉力で心豊かなまちづくり」は、前段の「地域の福祉力で」という部分が同じで、後段で違いを出している。第 1 期の計画では地域の福祉力の向上を目指してという内容で計画を進めており、第 2 期の計画では震災を経てその絆の力を地域の福祉力にしていこうという内容で推進を図ってきた。その流れからすると、その福祉力のさらなる充実を図るとというのが段階としてふさわしいのではないだろうか。A 案と C 案であると、すでに「地域の福祉力」は十分培われており、それをもとに未来を紡いだり心豊かなまちを作るというとらえ方になると思うが、重層的なネットワークや連携協働という言葉で示されている通り、まだ地域の福祉力はこれから充実していかなければならない段階にあると思う。今回の主題を考えると福祉の充実そのものをタイトルに挙げるべきだと個人的には思う。

【阿部会長】

お二人から積極的なご意見を頂戴した。他の委員からも賛同の声が出ており、非常に説得力のあるご意見であった。他にはないだろうか。

それでは B 案を推すということでお二人から意見を頂戴し、他の委員からも賛同する意見もあったため、本分科会としては B 案を採用ということで決めさせていただく。

5 その他

【阿部会長】

本日の報告事項及び議事は以上である。事前に事務局からその他として一点報告事項があると聞いていたので、ご説明をお願いしたい。

【石澤参事】

(参考資料により説明)

【阿部会長】

仙台市として計画を策定する際の資料編についての説明だった。ご説明感謝する。そのほかに本日も出席いただいた委員の皆様から何かないだろうか。

それでは、本日をもって本分科会としての答申案がまとまったということで、最後に委員の皆様お一人お一人から、本分科会の審議・検討を通しての感想や今後の地域保健福祉計画の推進、あるいは計画への関わり方等について一言ずつご感想やご意見を頂戴したい。大瀧委員から反時計回りでご発言いただく。

【大瀧正子 委員】

いろいろお世話になりました。自分は地域での診療に力を入れていたため、行政にはあまり関わり

なく過ごしていたが、今回医師会からこの審議会に出席するよう言われ、力になれるかどうかわからないまま出席させていただいた。一つの計画を作り上げるのにこれほど多くの場数を踏んで決めることが初めてわかり、行政の方の努力に感心した。行政の仕事というと区役所の窓口くらいしか知らなかったので、今回このような機会に恵まれて本当に勉強させていただいた。感謝する。

【折腹実己子 委員】

いただいた答申案の 29 ページの図を見ていたが、自分はおそらくこの絵の中で担い手の一人としてこれからも努力をする立場かと思う。市民の方々一人一人をしっかりとそれぞれの地域で支えられるようなサービスの提供や専門性の向上、地域の中でのネットワークづくりに、今後しっかりと取り組んでいかなければと改めて思っている。また、市社協の活動計画も、車の両輪という位置づけで策定作業を行っているが、参加する委員がほぼ同じであるものの、仙台市の基本的計画と社協の活動計画がそれぞれ別々になっており、市民にとっては少し捉えづらいものになっているかと思われる。いずれ一体的な活動を行う必要もあるかと感じるので、今後ともよろしくお願ひしたい。

【小菅玲 委員】

私は仙台歯科医師会を代表して本分科会に参加させていただいた。専門分科会という名称であったが、自分はなにか専門的な見地から発言できただろうかと、終わってみて今感じている。他の委員の皆さんはそれぞれの分野で地域の福祉に関する活動を行っているが、自分は診療をメインとして地域に関わってきており、市全体のことを見据えた活動や会議は難しいと考えていた。今回この審議会に参加させていただき、市全体を見据えた地域での活動やシステムというよりは、本分科会でも以前から繰り返し話題となったネットワークという、様々な立場の双方向の結び付きがより重要になっていると感じた。また、ネットワークもインターネットのように、ウェブ上につながっていければということを考えながら、この会議に参加させていただいた。非常に勉強になった。感謝する。

【島田福男 委員】

自分は地域に密着して活動してきたためか、どうしても周りが見きれずに近視眼的な活動になってしまいがちであったが、この会議に出てさらに全体を俯瞰して見られるようになった、感謝している。一つご紹介をさせていただくと、先ほど話のあったマイスクール 21 についてであるが、実際には学校ではなく地域の運営委員会が主体となって行っている事業である。構成している委員は学校、PTA、社協、民児協、老人クラブのメンバーで、子供の行事以外にも様々な活動を行っている。最近では高校や大学生が中心となって、食育の推進を目的として、自分たちで育てた野菜からキムチを作るなどの活動を行っている。もちろん地域の人には子供に限らず誰でも参加できるし、参加登録が必要ではあるがマイスクールを利用した事業も展開できる。一例に過ぎないがこういった活動を我々行っており、地域からも様々なことを発信していきたいと思っているので、今回ここにお集まりいただいた委員の方には、ぜひとも機会を見つけて声をかけていただき、協働やさらに幅広い活動のきっかけとしていただければと思う。これからもどうぞよろしくお願ひする。

【庄司健治 委員】

まず本分科会委員としての感想だが、我々から発言のあった意見を、しっかりと事務局の方々が受け止め、本計画の中に盛り込んでいただいたことに感謝したい。また、民児協の立場としての感想だが、この計画や社協の活動計画等でも、民生委員は地域福祉の担い手として非常に期待されているということを改めて感じた。民生委員の皆さんにも様々な立場の方々から期待されているという事実をよくご理解いただき、今後もしっかりとがんばっていただければと思っているところである。

【渡邊礼子 委員】

一年間どうもありがとうございました。今回の計画も多くの委員の方とともに策定作業を進めてまいったが、石澤参事をはじめ仙台市の職員の方たちが非常に一生懸命だったことに感銘を受けている。例えば市民の方、特に若者の声を聴き入れるためのワークショップを行った時や、分科会での委員の発言を積極的に計画に取り入れていただくなど、真剣に取り組む様子が要所でうかがえた。成果物を見て皆さんのご苦勞がよくわかった。市民、事務局、委員の皆で作り上げていった計画であるので、ぜひこれを生きた計画として施策を推進していただきたいと思います。

一つ要望であるが、パブリックコメントの中に、地域のリーダーや相談場所に関する意見が数多くあった。現在多くの団体で様々な人材の育成を行っており、その結果養成を受けた人たちは増えているが、その人材同士がうまくつながっていないという現状がある。誰かがそうした人材同士をつなぎ合わせ、ネットワークの根源となるべきであるが、それが市民に広く認知されなければ結局相談につながらないことも想定される。コミュニティソーシャルワーカーがそうした役割を担うべきであると事務局は考えていると思うが、リーダーの養成に一工夫して、市民が相談をしやすくなるような配慮をお願いしたい。

計画を読み込んでいくと、様々なところで人材の育成について記載されているものの、根本的にどこに行っても誰に相談したらいいのか、まだ見えていないと思うので、市民にもわかりやすく盛り込んでいただきたい。今回は非常に勉強させていただいた。

【諸橋悟 委員】

今回第3期の計画のなかで、非常に重要だと考えるのがコミュニティソーシャルワーカーについてである。やはり地域づくりが機能していないと、2025年問題により一気に地域が崩壊する可能性があり、今から支え合いの仕組みを作っていく必要性を強く感じている。そうした危機感を背景に、自分の圏域では何ができるかを考えて精神障害者の支援と計画の策定に関わっていた。障害者が病院ではなく地域で生き生きと暮らしていく中で、地域貢献をどのように行っていくかを今後実践的に考えていく必要がある。そうした実践を通じて地域の様々な活動者の方と協働で地域を形作っていければと思うが、地域によって多少推進力に差があることが現状の課題かとも考えている。今回の計画に基づいた事業や施策から得られたものを、周りの活動者に伝えていくことが非常に大事であると思うので、委員の方にはぜひこの分科会や社協の活動計画で知り合った人との連携を相互に進めていただきたいと思います。これからもよろしくお願いします。

【根本勁 委員】

私は地区社協の代表という形でこの分科会に参加させていただいた。久しぶりに基本方針や基本計画の策定に携わらせていただき、委員の皆様の真摯なご意見、討論に参加できて本当に勉強になった。私がここに出た理由の一つが、地域の拠点づくりをできるだけ早く手がけなければならないということ伝えるためであったと思う。私自身そうであるように、地区社協会長は町内会長などと兼職の方が多く、将来的には地区社協だけでは手が回らなくなることが想定される。また、人材育成という観点からも非常に好ましくないため、地域の担い手にはできるだけ多くの、そして若い方々になっていただきたい。この場の皆様をお願いしたいのは、もし担い手の研修会等を行う場合は、若い人が出られるような時間帯に開催していただきたい。そうすれば、今後地域福祉に参画する若者が増えてくるのかと思う。できるだけ多くの方が様々な役職をもって、それぞれの圏域での担い手となっていけば、今後この計画を実践する場合に非常にプラスになるのではないだろうかというふうに思っている。いろいろご意見伺って自分自身も勉強とさせていただいた。感謝する。

【中村祥子 委員】

第2期から地域保健福祉計画の策定に関わらせていただいたが、私はNPO活動をしている一人として、生活者の視点を伝えるという役割があったのではないと思う。自分自身計画を立てるのが好きで、前回、今回と、委員や事務局の方と協力して計画を立て、地域福祉の向上を図ってきたが、残念ながらそれが必ずしも生きにくさを抱える人たちを減らすに至っていないという状況にも直面している。今後は計画を立てるだけではなく、検証のあり方についても我々の責任として考えていくべき時期に来ているのではないだろうか。今までは計画が実行できたかどうかに主眼を置いて検証を行っていたが、例えば一人の市民が生活のしづらさを解消できたかというような観点から検証を行っていくと、別の角度からこの計画のテコ入れを図れるのではないと思う。少しでも多くの市民が生きやすい社会を目指して、今後もさらにやるべきことがあるかと考えている。

【中田年哉 委員】

計画全体を見渡してみても、数多く出てくる単語が連携や協働、重層的なネットワークであると感じている。福祉の現場に携わっている者として思うのは、支援と一口で言ってみても、一つの事業所や団体でできないことは多々あるし、もちろん行政だけに任せてできることでもないということである。現場で動いている様々な団体や行政を交え、それぞれの分野を超えて少しずつ力を出し合っていければ、現在救い切れていない人たちまでその支援の手を差し伸べることができると思っているので、重要なのはネットワークだろうと考えていた。そこでやはり要となるのがコーディネーターと呼ばれる人だが、これはどうしても一事業所の力では限界がある。そういうイニシアティブをとっていく人を仙台市、行政の方から出していただくと、各種の団体が集まって少しずつ協働が進むのではないかと考えている。つなぐ役割を市社協、コミュニティソーシャルワーカー、行政の方に担っていただき、地域福祉の推進にお力をお貸しいただきたい。

【鈴木孝男 副会長】

皆様 1 年間お疲れ様でした。自分は主に農村部のほうで活動をしているが、仙台市の状況と照らし

てみると、農村部のコミュニティ組織も大きな課題に直面している。主に、担い手が高齢者層に偏っているという点などから、世代を超えたコミュニティへの参画が今非常に求められている。仙台市でも、ワークショップで市民の生の声を聴くとやはりそのような状況にあるようで、自分自身かなり深刻に受け止めさせていただいた。反面、学生のワークショップを聴いてみると、地域に対する意識の高さを感じさせるものがあり、この意識をどのように参加につなげていくかというところに、戦略的な計画・後押しが必要だろうという印象をうけた。なかなか意識を行動に変えるというのは難しいかと思うので、この計画でぜひ推進をしていってもらいたい。特に若い人たちは地域に向き合う機会を用意することでかなり意識が変わるのかという印象も受けたので、そういった場づくりもやはり大事であろう。

一つ紹介させていただくが、農村部の方では、まちづくり協議会という組織が多く地域で立ち上がっており、主に小学校区を単位として町内会や自治会を束ねるような組織体となっているほか、さらにこれを法人化するような全国的な流れがある。まだ始まったばかりで課題もあるが、例えば法人化となると誰が担い手となるのか、経営力はどのように養っていくのかといった問題がある。そして活動自体も、福祉に限らず自治、生涯学習、社会教育等をすべて包括する形で、合理的かつ効率的に地域づくりを展開していこうという流れもある。その一環として、公民館や市民センターを協議会が指定管理を受けて運営する場合もあるようだ。今後仙台市がどのような方向に進んでいくかについては、こういった全国的な動きと照らし合わせつつ、次の計画を視野に入れて地域福祉活動の充実を積み重ねていってもらいたい。期待を込めて感想とさせていただく。

【阿部重樹 会長】

最後に私からであるが、事務局の石澤参事とは第1期計画のワークショップのころからの付き合いであると記憶している。そういう意味では私自身年を取ったと思うが、当時からすると仙台市の地域保健福祉計画も、より充実したものとなっており、新しい段階に来たと思っている。地域福祉の重要性和必要性はますます大きくなっており、社会的な存在感も当時より非常に重く大きくなってきたという思いを持っている。それだけ社会福祉全体のあり方から言うと厳しい時代が本格的に訪れているのかもしれない、それらを含めて新しい局面を迎えたという実感を持っている。

ご挨拶ということであったため、議事をつかさどる立場から3点お礼を申し上げたい。円滑な進行を心がけなければならなかったが、おおむね予定された時間内に収まってくれ、委員の皆様には大変ご協力をいただいた。また熱心なご意見やご検討をいただく必要もあったが、分科会のたびごとに申し上げていた通り、この点に関しても委員の方には大変感謝している。通常円滑な進行と熱心な審議はなかなか両立しないものであるが、全体的に非常に円満な審議会とさせていただいたと思っている。一方的な思いかもしれないが、この部屋を出ていくときに次回以降の分科会の心配をせずに帰れたことも大変感謝申し上げたい。いま思いつくだけでも3つの点について、委員の皆様方に感謝してご挨拶とさせていただく。

それでは最後となるが、事務局からは何かないだろうか。

【村上薫 健康福祉部長】

先ほどの会長の議事進行の中でもご説明があったが、事務局としても本日の分科会において今年度

の答申案がまとまったと考えており、本日が今年度最後の分科会となると思う。委員の皆様には活発なご議論をいただき、また答申案としてまとめていただいたことに心より感謝申し上げます。今後の予定であるが、今日の議論も含めた分科会としての最終的な答申をまとめたうえで、2月中旬くらいに阿部会長より市長あてに答申をいただくよう準備を進めていく。その答申書を基本として、今年度中には最終的な仙台市としての計画にまとめていきたい。計画策定後は関係者を始めとした多くの市民の皆様には本計画の周知を図っていきたいと考えているが、先ほどの鈴木副会長からのご提案のとおり、改めて連携しようという意識を持たずとも、日々の業務の中で常に連携して計画を進めていければと考えている。市社協の職員の方や、あるいは地域の皆様と連携協働しながら、具体的な施策の展開に努めてまいる所存であるので、引き続き委員の皆様のお力添えもお願いしたい。

最後に、この分科会は仙台市社会福祉審議会の中の分科会という形となっており、社会福祉審議会は今年の6月に委員の改選期を迎える予定となっている。他の分科会については一部委員の入れ替えもあろうかと思うが、本分科会に関しては、引き続き計画策定に携わった皆様に委員としてご就任をお願いしたいと、事務局として考えている。来年度以降の審議事項は、第3期計画の推進や進捗評価についてを想定しているので、引き続き皆様からご意見を頂戴し、より良い形でこの計画を推進していければと考えている。最後になるが、短い期間ではあったが委員の皆様の活発なご議論をいただき、本計画の策定に向けて大きく前進することができたことについて改めて御礼申し上げます。引き続きよろしくお願いしたい。

【阿部会長】

それでは以上で本日の議事の一切を終了する。改めて皆様のご1年間のご努力に感謝する。来年度も引き続きご協力いただけるよう、私からもお願い申し上げます。それでは事務局にお返しする。

【事務局】

どうもありがとうございました。来年度のことについて少し説明させていただく。来年度の社会福祉審議会の全体会は、委員改選に合わせて6月を予定しているが、地域福祉専門分科会には他の分科会と重複している委員の方もいらっしゃるのので、全体会後には分科会を行わない方向で考えている。第1回の分科会は年央の開催とし、第2期計画の最終評価についてご審議いただくことと考えているので、よろしくお願いしたい。それでは以上をもって本日の分科会を閉会とさせていただく。9か月間どうもありがとうございました。

以上